

優良農家の紹介

サラリーマン時代の経験を生かした私流経営参画

龍野市神岡町の佐々木久子（36歳）さんは、阪神淡路大震災をきっかけに、夫、宏さんの子供の頃からの夢であった農業を始めた。

神戸という都会育ちで、共働き生活をしていた夫婦にとって、見知らぬ土地での花壇苗栽培は、それまでの生活からは想像できないものであった。夢がかなない生き生きと働く夫に対し、それまで自分の持つ技術を活かし職場で責任ある仕事をしてきた久子さんにとって、農業という未知の職場で働くことは戸惑うことばかりで不満の多い日が続いた。これではいけないと、サラリーマン時代の経験を取り入れ自分にあった方法で農業経営に携わることを考え、現在では経営者の良きパートナーとして活躍されている。

1、女性の視点を活かした農業経営の取り組み

（1）パソコンを活用した経営管理

パソコンを導入し経理面、栽培資料の整理に活用し、労働時間の軽減を図る。

（2）女性の目から見た商品開発

①生産品目及び花の色の決定

花壇苗の消費者は女性が中心と考え、生産品目の選定に積極的に参加、特に花の色については、主に選定を行う。

②モデル花壇の設置

購入した人たちがより美しく花を楽しめるようアドバイスできるよう、農園の一角に花壇を作り栽培管理やアレンジの勉強ができる場所を作る。

（3）マニュアルづくり

①栽培マニュアル

栽培するごとに、播種、発芽、植え込み、出荷の日付と数量、労働時間、その他気づいたことや、使用した薬剤、土の配合割合などを記録し栽培マニュアルとして整理する。

このマニュアルは、「品種別収支分析表」や「原価利益率表」の作成に活用でき経営管理にも役立っている。

②作業マニュアル

基本的な作業の内容と手順、またその意味や大切なポイント等を文書にし配布、このことによってパート等の作業ミスも減り、またコミュニケーションも取りやすくなり、自分たちの仕事を見直す機会にもなった。

（4）花を通じた地域との交流

地域の婦人会等の集まりで、コンテナガーデニングの指導を行うなどして地域の人とのコミュニケーションを図る。



2、常に新しいことにチャレンジを

「経営に積極的に参加することにより労働報酬、労働時間、仕事の内容等自分自身に納得のいくものとなり、仕事が楽しい」と生き生きと語ってくださった。

現在は、栽培した花の写真を使ってオリジナルのポップ広告やラベルづくりに挑戦中である。

将来は、ハウスの近くに店舗を構え、栽培した花を販売したり、フラワーアレンジの教室を開くなど地域の人達のよりどころとなるような楽しい店を持ちたいと頑張っておられる。

藤井 久美（龍野普及センター）

ひょうごの農業技術 No.116

平成13年7月1日（隔月刊）

1部250円（申込先・県立中央農業技術センター）

兵庫県立中央農業技術センター（0790）47-2400

兵庫県立北部農業技術センター（0796）74-1230

兵庫県立淡路農業技術センター（0799）42-4880